

○事業内容 運送業

○ゼロカーボンに資する主な取組内容

- ・環境対応車の導入
- ・モーダルシフトの推進
- ・環境配慮型の物流施設

佐川急便は、持続可能な社会の実現に向けて「環境理念・環境方針」を掲げ、温室効果ガス排出量の削減や3R活動の推進、生物多様性の保全、次世代への環境教育などに取り組んでいます。

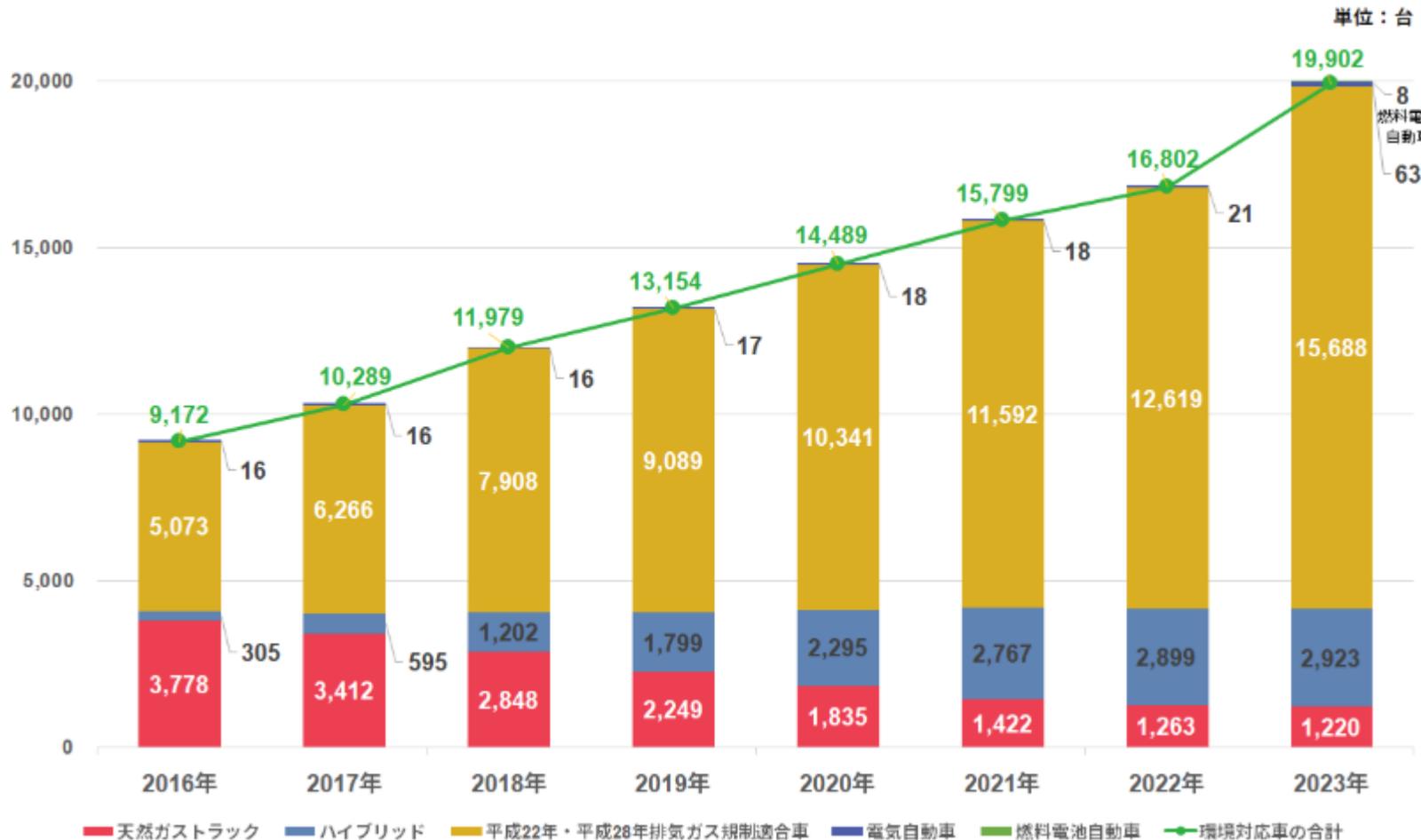
詳細につきましては、弊社ホームページをご確認いただきますよう、お願い申し上げます。

<https://www.sagawa-exp.co.jp/sustainability/environment/>

○環境対応車の導入

- 業界に先駆け1990年代から導入を開始 最近8年でその数は2倍超に。
- 「環境対応車」とは従来のガソリン車やディーゼル車に比べ、排気ガスに含まれる大気汚染物質（窒素酸化物・粒子状物質等）や地球温暖化に影響を及ぼす温室効果ガス（二酸化炭素等）の排出が少なく、地球環境への負荷が小さい車を指します。
- 佐川急便では2023年度末で19,902台の環境対応車を保有しており、その割合も年々増加しています。

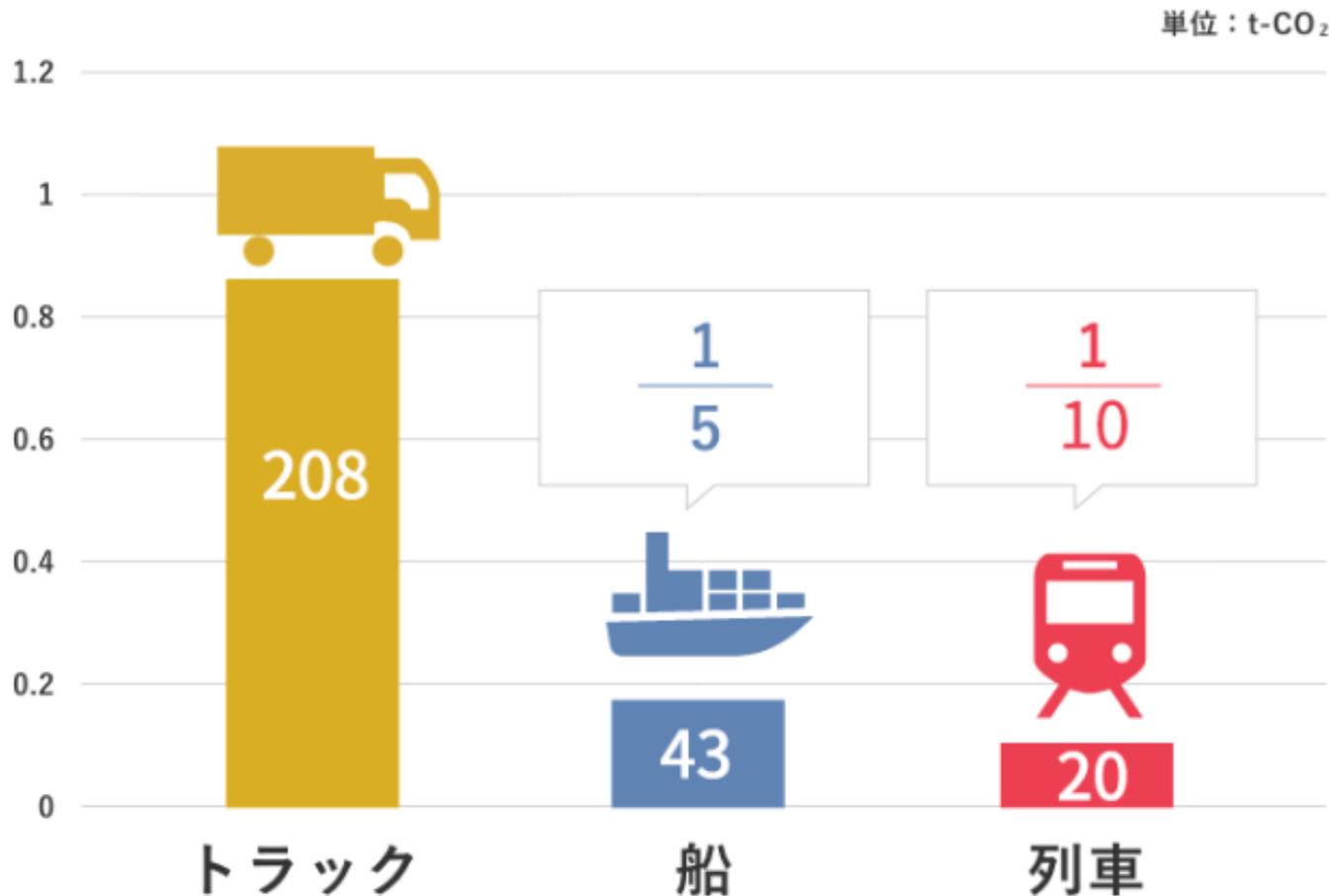
環境対応車導入の推移



○モーダルシフトの推進

- トラックによる長距離貨物輸送を、大量輸送が可能でCO2排出量が少ない列車や船の輸送などに切り替える「モーダルシフト」。佐川急便ではCO2排出量抑制とつながるモーダルシフトを積極的に推進しています。

モーダルシフトによるCO₂排出量抑制のイメージ



1tの貨物を1km輸送する際のCO₂排出量は、トラックと比較して列車が10分の1、船が5分の1程度とされています。



佐川急便は環境にやさしい鉄道輸送を認定するエコレールマークに協賛しています。

○環境配慮型の物流施設

- 佐川急便では2003年度から営業所23カ所の屋上に太陽光発電システムを設置し、再生可能エネルギーを利用しています。
- また、再生可能エネルギー電力への切り替えを進めています。電力使用量に占める再生可能エネルギー比率は、2023年度実績で51.1%まで向上しています。
- グループ全体でもさらに規模の大きい取り組みを進めています。佐川急便東大阪営業所が入居する「S Gリアルティ東大阪」では、発電電力を自家消費する方式を採用し、不足分の再生可能エネルギーを購入することで「CO2排出量ゼロ化」を実現しています。



S Gリアルティ東大阪は、「BELS（建築物省エネルギー性能表示制度）」最高ランクである「ZEB」認証を取得しました。

